

令和5年度 第3回学校運営協議会 記録

1 日時 令和6年2月20日（水）午後1時15分から4時15分まで

2 会場 静岡県立藤枝特別支援学校 多目的学習室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

委員 A、委員 B、委員 C【途中退席】、委員 D、委員 E【欠席】、委員 F、委員 G

(2) 本校職員

校長（岩附祥子） 副校長（若杉友美） 教頭（大橋幸彦）

事務長（新澤健一） 小学部主事（采女靖彦） 中学部主事（神原秀晃）

高等部主事（中村研司） 肢体学級統括主任（斎藤雅行）

教務主任（鈴木裕） 地域連携課長（池谷尚美）

4 内容

(1) 開会（進行：副校長）

(2) 会長挨拶／校長挨拶



【会長】: こんにちは。今回はインフルエンザに罹患しまして欠席してしまいましたが、今日は皆さんの顔が見られて良かったなと思いました。能登の方も大変な状況になっておりまして、浜松でも事件が起きてしまいました。また、焼津でも事故が起きていました。こんな状況の中でも、私たちは平常心を失わずに粛々と年度末を迎えないといけないということになっております。また、協議の中でいろいろな御意見が出てくるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【校長】: こんにちは。本日は学校運営協議会・コンプライアンス委員会に御参加いただきまして、ありがとうございます。会長様にもおっしゃっていただきましたが、年度末の学校の方では教育活動の最後のまとめとして、今年度やってきたこと、成果は何だろうか、あるいはやってきたけれども今一つうまくいかなかったこと、そんなことを精査しながら次年度を迎えるための準備をしているところです。今年度は、第1回、第2回の協議会でも申し上げたかもしれませんが、コロナが5類に移行になり、いろいろな教育活動がコロナ前と全く同じではありませんが、少しずつできていくことが増え、子供たちも大きな集団での活動を行うことができた一年間になったかなと思います。やってきたことで見えてきた。うまくいったこともあります。あるいはここ数年で初めて教員になった職員にとりましては、初めて大きい集団での授業を行う、行事を扱うことで戸惑いもあり、経験を重ねている教員からこんな風にやるんだよと

いう話を伝えながら歩んできたところです。今日は、第2回の学校運営協議会でいくつか御指摘いただいた安全管理の報告と、教育活動全般についての今年度の報告、そして令和6年度の学校経営の説明が大きな柱になっているかと思しますので、それらにつきまして御意見等をお伺いして、私たちもより良いものを作り上げていながら進んでいきたいと思ひます。長い時間ではありますけれども、どうぞよろしくお願ひいたします。

(3) 「本校の安全管理」進捗状況の報告

【副校長】: 前回の運営協議会で校内の一部分でしたが委員の皆様には歩いていただいて、ここは危ない、何か対策を等と御指摘をたくさんいただきました。それに対して学部だけでなく、校内には色々な係（分掌）がいますので、その分掌で話題にしました。まだ全てを解決できたわけではないのですが、進んでいる部分についての報告をさせていただきます。

【教頭】: 本校の安全管理ということでスライドを見ながら説明させていただきます。最初に全学部で行われていることについて、中主事から説明します。

【中主事】: (以下、スライドを提示しながらの説明)

フロアマットについてですが、以前はめくれあがっていたり、児童生徒が突っかかったりしてしまうのではという御指摘をいただきました。必要のない場所(トイレ前)のものは撤去しました。窓の部分については、市販されている鍵を付け、基本は子供たちが窓から転倒しないような措置をとりました。場所によっては、窓枠の下の部分と上の部分にも鍵を付け、安全への配慮を行いました。また、網戸の部分にはテープで固定をし、網戸も落ちないようにしました。

【教頭】: 続いて、掲示物の画びょう対策ということでは、プッシュピンを必ず使うということ、四隅を必ず留めるということを徹底しました。点検につきましては、各学部や分掌で定期的に行うようにしています。小学部の内容については、小主事から説明します。

【小主事】: 小学部は主に廊下の掲示物にプッシュピンを使っております。掲示をするものによっては、紐などをかけた時にプッシュピンでは掲示物が落ちてしまう等、かえって危ないということもあります。そういった場合は小さなフックがついているピンを使うようにしています。プッシュピンは、もし万が一廊下に落ちてしまった時でも針が上を向かないというのが使用目的でありますので、フック付きのピンを使用する場合においても針が上を向かないということで使用しています。また、それにプラスして、ピンの上からテープを貼るようにし、ピンが落ちないように二重に対策をとっています。前回は、テープが貼ってあるところとそうでないところがありました

ので、全部の場所で徹底して取り組むようにしました。

小学部は各教室の前にハンガーラックがあります。特に冬場に子供たちが着てきた上着をかけています。前回、参観していただいた時にこのハンガーラックについて、地震等の揺れでハンガーラックが動いてしまう、ハンガーラックが転倒した際に避難の経路を塞いでしまうという御指摘をいただきました。本校の技能員に相談しまして、壁にねじを付けチェーンでくくり付けるようにしました。学習によっては、ハンガーラックを移動する必要があるので、チェーンも取り外しできるように工夫して対策を行いました。

また、前回は廊下の隅にパイプ椅子が置いてありましたので、すぐに撤去しました。また、廊下にある鉄庫に緩衝材が付いていませんでしたので、万が一当たった時の衝撃を少なくするために緩衝材を付けるようにしました。

【高主事】：高等部棟について報告します。前回、作業教室の方を中心に見ていただきました。木工室については資材の木が左右に張り出していたり、通行の邪魔になっていたりするという御指摘を受けました。この（スライド）写真は、抜き打ちで後ろの方から撮ったものですが、以前は出しっぱなしになっていた籠も机の下にきちんとしまわれていて、これから使う資材も一か所にまとめて置いてありました。先生方も考えて配置を見直してくれたのかなと思います。今では、部屋の中の動線も確保できているという状態です。写真はありませんが、前回陶芸室の棚についてアドバイスいただいたところなのですが、壁がコンクリートになっているので、紐状のものを使用して転倒を防止する対策を進めているところです。

先ほど聞いた話ですが、リサイクル室の照明がLEDになったということです。校内では第一号になりました。これから、校内でも広がっていくといいなと思います。

【肢体統括】：前回、1階の廊下を見ていただいて、物が多い、緑の防御ネットが下まで垂れ下がっていて足に引っかかってしまうのではないかと、廊下の棚を隠しているパネルもペラペラして引っかかってしまうのではないかと、御指摘をいただきました。棚の防御ネットについては、子供たちが通る高さには届かないように短くし、ネット自体もフックに掛けられるようにし落ちてこないように対策をとりました。棚の2段目には物が落ちてこないように棒を横にして支えるようにしました。こちらの棒も鍵を付けて取り外しができるようになっていました。棚に置く物についても考えまして、今までは2段目に防災用品の水分食量3日分が入っており重さもありましたので、重い物は下の段に置き比較的軽い物は上段に置くようにしました。

1階の廊下の（スライド）様子ですが、子供たちが帰った下校後はこのように車椅子が置いていない状態になっています。子供たちが活動していない状態であれば、廊下も物が置いていない状態にできるのですが、教室内で活動していますとどうしても車椅子、バギー等は教室内に置くことができません。学習スペースを確保するためには廊下に置く必要が出てきてしまいますので、今後教室側から床タイル2枚分の幅に

ラインテープを引きまして、できるだけ一方側に寄せて物を置くようにし、反対側はしっかりとした通路を確保できるようにしていきます。

肢体不自由の学級はとにかく物が多いので、物の置き場所や空いているスペースを活用していこうと考えています。このスライドのように、使用頻度の高い物は手前に置いて、奥のスペースは出し入れしにくいですが頻度の低いものをそちらにしまうようにしました。また来年度に向けて、過去使っていたから取っておいた物というのが残っているのですが、使わない物は破棄をするということを心掛けていきたいと考えています。

【教頭】：情報関係の安全対策ということで説明させてください。教職員は一人一台パソコンを持っています。防犯のために、パソコンをワイヤーロックで机にくくり付けている状況にしており盗難されないようになっています。こちらにつきましては、何人かのワイヤーが外れている状態にあったので、徹底して行うようにしました。情報教育課で、このワイヤーが外れていないかのチェックを毎月一回、情報機器の点検と合わせて行うようにしています。データについては、サーバーの指定された場所に入れるということを徹底しています。重要書類につきましては、データの名前の先頭に「●」を付けて表示するという約束にしています。保管については、教務課で管理しています。

続いて防犯関係になります。

【統括主任】：1階の肢体学級教室になります。構造上、廊下側からしか鍵が掛けられません。不審者等が侵入してきた際に、教室の内側から鍵を掛けることができない状況になっています。そこで、各教室内側に紐なしチェーンを用意しまして、ドアを開けられないようにするという対策をとっていますが、強い力がかかったときには開けられてしまうことも考えられますので、もう少し対応できるものを用意できるようにしていきたいと考えています。

【事務長】：事務室での対応です。安全対策については、各学部から出されるものについて、簡単に対応できる内容については技能員に依頼しています。しかし、技能員一人で対応してもらっていますので、早急に対応が必要なものに対しては業者に依頼する等の処置をとっています。

防犯対策についてです。各学部棟の昇降口には防犯カメラが付いているのですが、これまで正門の入口には付いておらず、こちらの件については数年前からPTAの方からも設置の要望がありました。今年度、南門ですが防犯カメラを設置しまして、事務室にあるテレビをモニター替わりに使用して、職員が交互に視線を送って不審者が侵入していないかを確認しています。

【教頭】：以上、報告を終わります。

【副校長】：前回の協議会で委員の皆様いろいろなことを御指摘いただきまして、もちろん十分ではないのですが早速できることに手を付け始めています、という報告をさせていただきました。私共といたしましては、年度変わりになり、教職員がだいたい3分の1程度入れ替わってしまう状況になります。これは毎年のことです。やはり、今こういう意識が高まってきたけれどもまた意識が薄まってしまうということも起こらないとも限りません。ですので、きちんと共通理解をし、特別に何かをすることも大事ですが日常の中で当たり前に行うという意識をまず教職員がもち、そして子供たちにもそういった教育をしていかなければならないと考えています。

お一人ずつ、御感想をただければと思います。

【委員D】：前回指摘させていただいた内容を、改善できるところから進めてくださっていて、ありがとうございます。防犯カメラの部分や内側から扉の鍵をしめられるようにといった辺りですが、閉められる環境を作っておくというのは大事なのですが、ただ入られてしまうということはありますので、閉める時間を作ることや閉める場所を作ることが大事なかなと思います。弊社ですと、鉄庫の管理でいいますと外部から入られてしまうというところで裏の搬入口は施錠する、使わないときは閉めておくということで防犯対策をしています。付けたら終わりではないですし、何かあった時に閉められる環境を作っておくということが大事で、日頃から人が簡単に入ってこられない環境を作っておくのが大事なかなと思いますので、その辺りをまた取り組んでいただければと思います。

【委員G】：保護者の立場としましては、「凄い」の一言です。自分の職場では、日々忙しいですし、「つつい」という言葉で、ここまで（学校の対策）徹底できておりません。高等部の作業の部屋も抜き打ちで検査してここまで徹底している状況ということは、なかなかできることではないかなと思います。保護者としては本当に安心しております。ありがとうございます。

【委員C】：迅速な改善の様子を報告いただきまして、大変嬉しく思います。ありがとうございます。素晴らしいと思いました。職員の方が3月で切り替わるということでしたが、例えばこういったリスクマネジメント会議みたいなものは定期的で開催されているのでしょうか？それであれば、その会議での情報共有と実際に事故が起こるか起こらないかのところでは教職員の温度差みたいなものがポイントの一つになるかなと思いますので、是非情報共有をされて今後も事故のないように気を付けていただければと思います。ありがとうございます。

【委員F】：ネットが垂れ下がっているという状況を前回見させていただきましたが、本当にきれいに整理されていると思いました。重さのことや大きさのことを考えている

ということで、本当に素晴らしいなと思いました。防犯カメラのことですが、カメラに何か映った場合に、その後どのような取組をするかということはわかっているのでしょうか。例えば、犯人が入ってきた場合の対応です。

【教頭】：不審者対応というところで、危機管理マニュアルがありますのでそれ則って対応することになっています。

【委員 F】：本校もマニュアルに沿って対応するという事になっているのですが、実際に起こった場合に本当にそのようにうまく動けるかというところがありますので、日頃の訓練次第なのかなと思います。マニュアルに沿って、何回も日頃の訓練を重ねていただいて安全対策に取り組んでいただきたいなと思いますので、今後もよろしくお願いいたします。

【委員 B】：前は一緒に周れませんでしたでしたが、ただ今回報告を聞かせていただいて非常に整理整頓できていて危機管理の面でもきちんとされているなと思います。まだ細かな面はいくつかあるかと思いますが、今後の課題として取り組んでいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【委員 A】：前回お休みしてしまいましたが、ただこれだけきちんと対応してくださっていただければ良いなと思いました。私事ですが、事業所に泥棒に入られたことがあります。夜間に一枚ガラスのロックをバーナーで焼き切って入ってきて、2階にある 50 kg 位ある金庫を持っていかれました。金庫の中には、職員の個人情報が入っていました。お金ではありません。金庫を壊した人は「何だ、これ」と思った状況になったと思います。それから、SECOM を入れて全事業所に導入しています。先ほど不審者の対応という話題になりましたが、私共も施設を開放していますのでどなたでも入れるようになっています。皆さん普通に入ってきて、2階をぐるっと周って帰っていく方もいます。職員も誰かわからないということもあります。ただ、いつもアルバイトの方やパートの方が出入りするんで、職員もその方だろうと思いついて、結局誰だったのと問うた時に、全然知らない人だったということが現実的に起こってしまいます。でも、それは職員が一言ずつ声を掛けたり、その場その場できちんと対応できていたりすればいいのですが。そんなことが年に 4～5 回あります。

不審者の方に、テレビでもありましたが「さすまた」で対応する訓練などはありますか？

【副校長】：あります。

【委員 A】：素晴らしいです。私共も、訓練を含めてきちんとしないといけないねと話しています。設置して終わりではないので、ここから先をどうするかということを実

的に福祉施設にも泥棒が入るという状況から、この危機管理と防犯対策をしっかりとしないといけないなと思いました。能登の地震があって、私共の職員も能登へ里帰りをしていました。連絡が一週間つかなく、二週間遅れで職場に戻って地震の話を書きました。その時に、「もう何もできない。立ってもいられない。ただ高台に逃げるしかなかった」という状況だったそうです。(安全対策の報告で) 転倒防止の柵を付けたり、チェーンを付けたりとありましたが、(職員は)「一切無理です」と言っていました。もっと先にやらないといけないことは命をどうやって守るかということで、みんなで声を掛け合って、どこに逃げていくかということをもとまきちんとしておかなければダメだよという話を涙ながらにしてくれました。お友達や親戚を亡くしたりしているので、そんな体験者の声を伝えました。地震対策も安全対策の中に盛り込まれているとは思いますが、私たちが改めて地震対策も含めて見直さないといけないなと思いました。是非、一緒に静岡という土地柄も踏まえて考えていければと思います。

【副校長】：ありがとうございました。今後も職員で力を合わせて、また保護者の方々の意見も取り入れながらより良い学校を目指していきたいと思っています。

休憩 (10分)

テーマ1、テーマ2 <進行：委員B>

(4) **テーマ1** 令和5年度学校経営について(関係者評価含む)

【委員B】：1月28日(日)に大洲地区交流センターでの「ふれあい交流まつり」が行われました。今回は子供作品展に藤枝特支の児童さんの作品も参加していただきました。700人ほどの方々が見に来てくれ、良かったなと思いました。ありがとうございました。では、テーマ1について進めていきたいと思っています。「令和5年度学校経営」について説明をお願いします。

【副校長・教務主任より、資料1～6ページについて説明】

【委員B】：令和5年度の学校経営報告書、令和5年度学校評価(教員)アンケート集計結果報告、令和5年度学校評価(保護者)アンケート集計結果報告について、質疑応答を行います。よろしくお願いいたします。

【委員D】：何点かありますが、よろしくお願いいたします。まず、業務の効率化について、「業務の見直し事例3例以上」とあります。短縮日課の設定はその一つかなと思いますが、他にどんな事例があったのか伺いたいです。

【小主事】：小学部では、月曜日の下校時刻が他学部より早いです。そのため、連絡ノートを書く時間を短時間で済ませるため『Noノートデー』としています。連絡ノート

を書くことで、子供たちを見届ける教員の把握が手薄になることを極力防ぐため、書く分量なども三行程度にしようと呼び掛けていますが、こちらに関してはやはり保護者の方とのやり取りや、お伝えしたい子供のあらわれなどから徹底できない部分もありました。他には、会議があるときは事前に資料を配布して会議の時間を短縮するようにしています。

【中主事】：中学部では各種会議を1時間以内に終われるよう進めています。また、教材研究をする時間はまとめて取るようにし、その後の時間を各自で有効に使えるようにしています。

【高主事】：学校評価とは別に学部評価を行っているのですが、その回答の中に「担当する業務の量が個人によって違う」というものがあり、個々によって負担感に差異があります。また、年間でみますと特に4.5月が多忙となっており、時間外勤務が45時間を超える方もいます。ですので、特定の人だけに業務が偏らないよう主事としても業務内容を把握するようにしています。

【肢体統括】：会議などは、知的学級と肢体学級を合同で行えるように内容を精選して進めています。また、授業づくりでは、適正な教員の人数を調整し、業務内容を分担しながら事務処理時間などに活用できるようにしています。

【委員D】：ありがとうございます。それぞれで工夫して業務の見直しをされているということがわかりました。短縮週間を設定するということで、先生方の時間は確保できているというのは良いことだと思いましたが、一方で生徒の授業の時間が少なくなってくるというのも事実だと思いますので、その辺りの担保なども大事になってくるのかなと思いました。また、前回の協議会でもお伝えしたかもしれませんが、個人や役職によって抱える課題があるのかなと思います。PC 入力得意な方もいれば、書き物が苦手な方もいたりすると思いますので、各々で抱えている課題を整理して同一の課題解決に向けて取り組んでいけると良いのかなと思いました。

もう一つはA B評価の示し方についてです。Aはできた、Bはややできた、ということで良い回答と思ってしまいがちですが、すべてがポジティブなものではないのかなと思います。4件法ですので、Bの中には普通という考えも入っていると思います。このBという回答は、少しの差でCという回答に変わってしまうかもしれません。今回の学校経営報告では全ての評価がAとなっていました。職員アンケート結果において、問5、問6、問7、問9はAの回答よりBの回答の方が多かったということになっています。ですので、今後はこのB回答をいかにAにもっていくかという視点が大事になってくるのかなと思いました。ただ、保護者アンケートにおいては全ての質問項目でA回答がB回答を上回っていますので、保護者の方々の評価は良かったのだと思います。問7の「学校は、相談しやすいところだと思いますか」については、

ややB回答が多く見られるので今後の課題の一つになるのかなと思いました。

【委員B】：ありがとうございました。市川様、お願いします。

【委員F】：お願いします。ICT機器の活用とありますが、どんな機器のことでしょうか。

【小中高主事、肢体統括】：電子黒板や大型テレビ、iPad、計算アプリ、デジタルカメラ等を授業の中で教師が使用したり、児童生徒が調べ学習や発表の場、作業学習等の時間で使用したりしています。

【教務主任】：職員アンケートの自由記述には、「大型テレビの台数が少なかったり、iPadを借りる場所が教室から遠かったり、共有パソコンを使用しないとスライドを表示することができなかったりと不便さがあります」「カードリーダーの数が少なく、データの移行に時間がかかってしまう」等が書かれていました。全体的に、手軽に使用できる機器が少ないということに課題があります。

【委員F】：使用しているiPadに、アプリは自由に入れることができますか。ICT機器の講習会などは行っているのですか。

【副校長】：学習会や研修会は、夏季休業中等に実施しています。

【教頭】：アプリに関しては自由に入れることはできません。容量も限られていて、またWi-Fiの環境も決して良いものとは言えませんので、なかなかスムーズに進めることが難しいです。

今年度は、日教弘（日本教育公務員弘済会）より360°カメラを寄贈していただきました。主に中学部で使用していますが、例えば校外学習の事前資料として目的地の様子を360°カメラで撮影して生徒に見せたり、当日の様子を撮影したりして学習の振り返りをしたりしています。また、視線入力可能な装置も導入し、特に訪問教育の児童生徒が身体の動きに制限される中でも視線を動かすだけで文字等を入力して機器を操作することもできるようになっています。

【委員F】：県や国にお願いして、スムーズにネットワーク環境が整うようになってほしいですね。

ICT機器を活用しないと、授業ができないというわけではないですね。

【小中高主事、肢体統括】：そういうことはありません。場面において使用することで、効果的であるということです。特に肢体学級の児童生徒は、見て、聞いて、感じてと体験的な学習を大事にしています。ただ、コミュニケーションや行動の一つの手段と

して ICT 機器の活用も併用していきたいと考えています。

【委員 F】：ありがとうございました。小村様、お願いします。

【委員 G】：感想を述べるという形になりますが、お願いします。保護者としては本当に安心して通わせてもらっています。保護者評価も A 評価で納得しています。ICT 機器については私自身も便利だなと思っています。私はいわゆる健常者になるわけですが、ICT 機器を使って調べものをして手足の延長になっていると感じています。子供たちにとっては ICT 機器がハンディキャップを埋めるもので、上手に活用できたら嬉しいなと思いました。

【委員 B】：ありがとうございました。私からお願いします。学校経営報告の安全・安心のところ「ヒヤリハット事案」とありますが、どの位の数でどんな内容のものがあったか教えてください。

【副校長】：数は集計していませんが、内容については各学部で把握して対応していますので、報告してもらいます。

【肢体統括】：医療的ケアの事案がありました。給食時に滴下のスピードが計画している時間より早くなってしまったこと、経鼻チューブが抜けてしまったことがありました。対応策としては、人工呼吸器を装着している子供もいますのですぐに医療的ケアのマニュアルに沿って行動し、事象については即時に報告、他の職員に周知を行い、事象を繰り返さないようにしていきます。

【高主事】：生徒が思いもよらぬ行動をとることもあります。それは、これまで一度も見られなかった行動だったりするときもあります。ですので、学部会や朝の打ち合わせで共通理解を図るように連絡し、学級や学年だけでなく学部のチームとして対応できるように情報の共有をしています。

【中主事】生徒が学校の iPad を校外へ持ち出そうとしてしまったり、けがをした際に実は骨折までしていたことに気付くことができなかつたりしたことがありました。また、登校していない生徒への確認の連絡が遅れてしまったこともあり、思い込みや大丈夫だろうという教員の危機意識の弱さがそれらの事案につながっていたのだと思います。事象が起きたときは即時報告の徹底と、学部のホワイトボードで情報を共有できるようにしています。

【小主事】児童が使う学習机に自分の荷物などをかけているのですが、その荷物に足がかかり転倒してしまったということがありました。「ヒヤリ」「ハット」することは多々

あるのですが、その都度、学部会や主任会、朝の打ち合わせの際に連絡し、情報を共有しています。

【委員 B】：ありがとうございました。以上で質疑応答を終わります。最後に関係者評価についての説明をお願いします。

【副校長】：関係者評価アンケートに評価記号と自由記述の記入し、協議会終了後に提出していただくよう依頼。

～休憩（10分）～

(5) **テーマ2** 令和6年度学校経営計画「目指す学校像」について

【委員 B】：令和6年度学校経営計画（案）について、校長先生をお願いします。

【校長】：7ページをご覧ください。この会では、目指す学校像について説明をさせていただいて、それに対して御承認をいただくという時間になると思いますのでよろしくをお願いします。

教育目標は、『「ひびき合い、つくり合う」中で、自立に向けて力強く生きる人を育てる』です。本校教職員が育休等の職員を含め、あるいは会計年度の短時間勤務の職員も含めると200人近くになります。その中で350人以上の児童生徒を育てています。そうした時に、教育目標の共有が欠かせないと考えています。この言葉がどういう意味なのか、どんなところを目指していく学校なのかを共有したいと思い、来年度は少し補足の言葉を加えました。「ひびき合い、つくり合う」。何と何がひびき合って、どんなことをつくるのか、ということで児童生徒が教職員や地域の人々、あるいは児童生徒同士がひびき合う。そして何をつくっていくのか。よりよい学校、地域、それぞれの生活をつくり合っていきたい。そんな活動をする中で、どんな子供が育ててほしいのか、自分らしくなりたい自分（これを自立と捉える）に向かって、些細なことでへこたれたりせず、しなやかに取り組み自分の持てる力を発揮する、それを「力強く生きる」としています。そんな人を育てていきたいというところを、共有しています。先ほど肢体統括の話の中にもありましたが、人工呼吸器をつけていて活動に制限のある児童生徒から、高等部卒業後は障害者雇用を目指し企業に就職している生徒まで、どの子にとってもこの言葉がすっきりときて、先生方一人ひとりがクラスの子をこうやって育てるのだと共有できる言葉として選んでみました。それが教育目標であります。では、それを具現化していくための柱として掲げたものが、キーワードとなるア・安全安心、イ・授業、ウ・連携の3点です。これは、今年度も掲げているキーワードと同じです。先ほど、今年度の実践の中で反省が出てきたことをいかに改善しながらいけるかを考えて、目標具現化の柱の柱には「効率かつ効果的な業務遂行のもとに」という言葉を付けました。今年度は、先ほどみていただいたように取組目標と

して一つ項を起こしていましたが、全ての業務に対してこのような姿勢で行っていくという方がわかりやすいのかなと思い、ここにこの言葉を記してあります。「ア・命を守り、人権を尊重した安全・安心な学校づくり」今年度、355人の児童生徒のうち、残念なことに一人が命を落としました。必ず明日が来ると思っている子もいますが、そうではないお子さんを大事に育ててくれている保護者の方がいます。その命が輝きながら、成長していくように私たちは努めていかなければならない。このような思いから、アの最初の言葉を「命」にしました。「命を守り、人権を尊重した安全・安心な学校」。そして一方では、「教職員が効率よく効果的に業務を行い、児童生徒の学びを支える学校づくり」。先ほど、ソフト面ハード面という言葉もありましたが、色々な場面で安全な学校になるように、こちらは教育環境のあたりを考えてたてた言葉です。

イは授業。「一人一人の確かな成長と発達を積み上げる授業づくり」。学校で子供たちは8時半過ぎに登校し、長い場合は15時過ぎに帰ります。大半の時間は授業です。やはり学校ですから授業が勝負。ちゃんとした授業を行おう、ということでイのところでは成長と発達を積み上げる。小学部6歳の子が中学生になり、受検をして高等部に進みます。最長で12年間いる子供たちもいます。学習がきちんと積み上がっていくことを願っています。

ウは連携です。「児童生徒、保護者、地域、関係機関と共に育ち合う学校づくり」。学校だけが頑張る、地域だけが頑張るということではなく、学校つまり児童生徒が保護者や地域や皆様方と何かに関連し合いながら共に育ち合っていきたい、そんな願いを込めています。具体的には、先ほども話題になっている短縮週間を設定します。これは、ほぼ毎月一週間程度設定できるといいなどと計画しています。時間を用意しました。そしてその時に、何をやっていくか。先ほども、同一な課題があった場合は、それを解消するようなものがあるといいのではないかと、そのような助言をいただいています。教職員のキャリアステージにおいて求められている力が、静岡県から示されています。そのキャリアステージに基づいて、本校独自の取組として、自分が何を頑張っていけばよいか、そんなところが校内で行われる様々な研修や学習会と関連付けて学んでいくことで、時間の確保と内容の充実、双方を来年度具体的に取り組んでいきたいと考えています。先ほど短縮週間に対して授業時数はどうだろうかという御心配の声もありました。文科省で定められている学習指導要領で求められている授業時数に対して、本校は実は超過した学習をこれまで行ってきました。静岡県としましても超過分を適切な数字にしていくようにと指導があり、それを加味した上で来年度一週間ずつ短縮週間を設けることが県から指示された内容にも合致しますし、先生方が時間のない中授業の工夫、子供の記録、保護者からのいろいろな相談に応じる等、様々なことを行っておりますので、その一週間ずつを効果的に使いながら学校をより良いものにし、子供たちの授業をより高めていき成長に資する時間になればいいと考えているところです。まだ、骨子の部分だけではありますが、このようなことを大切にしながら令和6年度教育活動を行っていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願い

いたします。

【委員 B】：ただいま校長先生より、目指す学校像についての案が示されましたが、委員の皆様から何か御意見がございましたら聞かせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【委員 A】：短縮週間という状況なのですが、今年やっていたのは先ほどのアンケートのところに「短縮日課の意図が全職員には行き渡らず…」として成果と課題のところに出ていましたが、これまでも短縮週間があったのですか。

【校長】：少しだけありました。

【副校長】：今年度は短縮週間がない月もありましたので、来年度は毎月実施していくという計画でいます。

【委員 A】：そうすると、この「意図が全職員に行き渡らず…」という言葉はなくなるということですね。わかりました。

【委員 B】：他はよろしいでしょうか。では、委員の皆様にお伺いします。校長先生がお話をしました「令和6年度目指す学校像」について承認いただける方は挙手をお願いいたします。

【全委員】：(挙手)

【委員 B】：令和6年度学校経営計画、目指す学校像について、本協議会は承認をいたします。皆さん、御協力ありがとうございました。

【校長】：皆様、ありがとうございました。これを基に具体的なものを考え、よりよい学校に進んでいくよう努力いたしますし、委員の皆様方にも色々と御協力御助言いただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【副校長】：委員 B 様、ありがとうございました。

連絡をします。本日の議事録につきましては、この後作成をしていきます。郵送させていただきますので、内容を御確認ください。二つ目は、先ほど関係者評価という紙をお渡ししましたが、お帰りの際に箱に入れて御退出をお願いします。

以上で閉会とします。校長より閉会の御挨拶を申し上げます。

(6) 校長よりお礼の言葉

本日はお忙しい中、学校運営協議会の御参加、そして活発な御意見をいただき、ありがとうございました。どの集団もそうかと思うのですが、これが今考えられる中で一番良いだろうと計画をたて、実践をし、そして時折に見直しをしたり改善をしたりして、進んでいるのではないかなと思います。本校もそのようにして令和5年度、今日まで進んでまいりました。そんな中でこういう会を行ったことで、また新たな視点とかここはどうなんだとか、聞いていく中でこれはもしかしたらわかりにくい表記だったのではないかなと気付くことができました。こういった機会を大切にしながら、学校がより開かれたものとなり社会の中にある学校、そして子供たちは地域の中で生き、将来はそういう大人の人になっていくということを改めて感じたところです。また、このようなことを大切にしながら次年度頑張っていければと思います。本当にありがとうございました。そして、令和5年度の学校運営協議会は本日が最終日となりますがまた来年度のことにつきましては、日を改めて御相談をさせていただきたいと思っておりますので、合わせてよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

【副校長】：以上を持ちまして、令和5年度第3回学校運営協議会を閉会します。ありがとうございました。

